

## Implementation Knowledge Developmentの概念実体化の補助図式としてみた四面会議システム

京都大学防災研究所・岡田憲夫  
防災計画学研究発表会  
2009年 10月 30日

## 本発表の骨子

- 総合防災ではImplementation(実践適用)が一つの本質的な研究テーマとなりつつある。
- Implementationの意味内容を計画システム論的に検討していく思考実験装置の一つとして、四面会議システムというワークショップ技法を取り上げる。
- 鳥取県智頭町における安全・安心まちづくりの取り組みを事例にしてImplementationプロセスを、特有のKnowledge Development(知識開発)の過程としてとらえる。

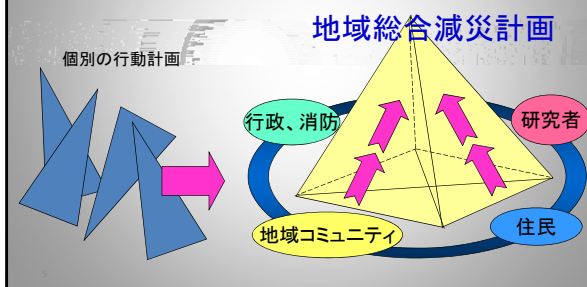
- その概念実体化の補助図式としてみた四面会議システムの活用の意義について考察する。
- 具体的には、まずImplementationの原義的な意味に遡って、それが「仮設的計画」と「具象的空間配置」の相互回帰型変換過程という特性を持っていることを指摘する。
- これが旧来の計画システム論では十分に言及されてこなかった特性であることを示す。
- Implementation Processは多主体参画型で計画を作成し、協働的に実践可能な行動へとつなげていく、きわめて動的なKnowledge Developmentプロセスであることを示す。

## Implementationの原義的な意味

- To implement "it" = To put it in → To put "it" in <place/action>.
  - To implement "(a/the) plan" → To put "(a/the) plan" in <place/action>.
- 相互回帰型変換過程
- "(a/the) plan" (仮設的/確定計画) ⇔ <place/action> (具象的役割/行動要素空間配置)
  - 空間配置 = 機能空間・時空間配置

## お互いの合わせわが重要

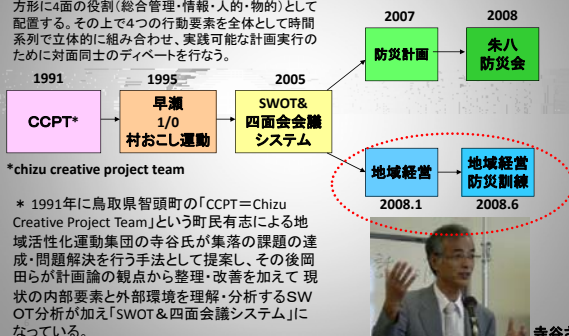
実践に結びつかない個別の行動計画から、  
実践可能な総合防災戦略行動計画づくりへ

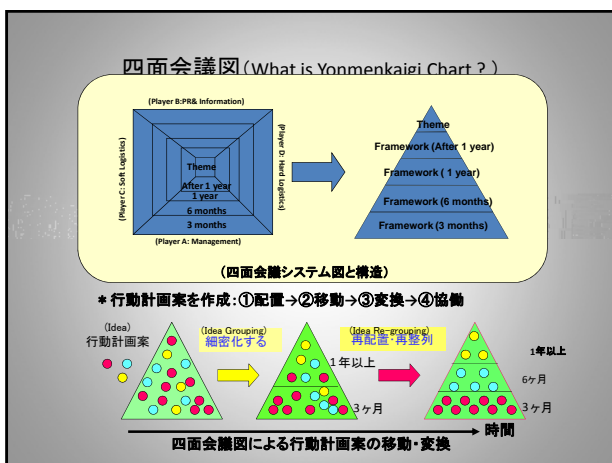
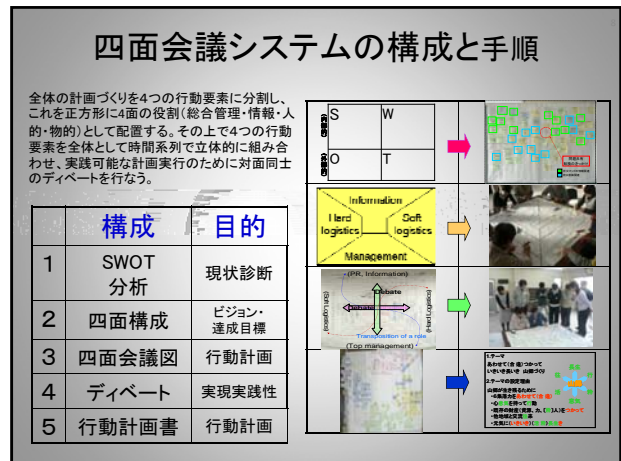
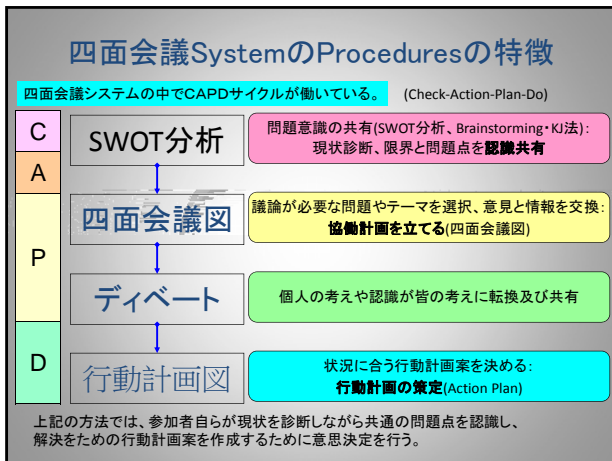


## 四面会議システムの概要

### \*特徴

全体の計画づくりを4つの行動要素に分割し、これを正方形に4面の役割(総合管理・情報・人的・物的)として配置する。その上で4つの行動要素を全体として時間系列で立体的に組み合わせ、実践可能な計画実行のために対面同士のディベートを行なう。





### 各面の行動を四面で合わせる(Part2)

- 真四角の「四面ピラミッドの平面図」のようなもの
- 各面(側) 分担する各役割
  - 個別行動計画構成項目の洗い出し
  - 第一段: すぐ先のこと(短期 例:1カ月)
  - 第二段: もう少し先のこと(中期 例:6カ月)
  - 第三段: 大分先のこと(長期 例:1年)
  - =仕上げの時期

### 四面構成と役割

- 四面は、参加者の組織・地域・身分による役割分担ではなく、その人の能力・専門性・知識・関心を中心に役割を決める。目的に貢献できるところに行く
- 垂直関係から平行関係で意思決定の場が変わる。個人の個性を認めているので発言平等の場の形成が可能でWin-WinのSynergy効果が期待できる



四面の役割	Role	機能
	Management (M)	総合管理・運営
	PR & Information (I)	Communication
	Soft Logistics (S)	Human Resources
	Hard Logistics (H)	Physical Resources

### 既存の方法と四面会議システムの差異

既存の方法の問題点

- 参加者の活動は個人行動の対策と判断に限定している。
- 進行役が設定したシナリオに対して参加者が解決することを中心としている。
- 行動計画の樹立までは考慮しないリスク認識の共有に止まっている。
- 災害前の防災活動の実践的な計画的プロセスの要素が十分ではない。

四面会議システムは、小集団の参加者が状況分析後、現状や地域性に合うテーマやシナリオを自ら考え、対策を時間軸で行動計画し、その実践可能性をグループで相互ディベートしていくことが独創性として挙げられる。

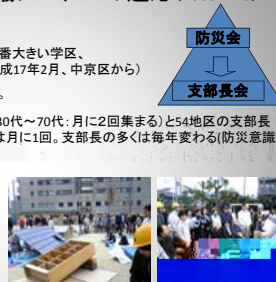
- 同じGoalに対する参加者の暗黙的な同意
  - 自らシナリオを想定して計画を立てる。
  - 全体の過程の中でCAPDサイクルが働いている。
  - 計画案を自らも批判し評価して協働作業で改善する。
2. このような特性から予測が難しい自然災害の多様な状況に対して多角的な取り組み能力を高めることは勿論、グループによる問題解決のための協同・協調力が向上することが期待される。

### 四面会議システムの最近事例

2008, 1, 京都	2008, 1, 山郷地区	2008, 6, 山郷地区
プロジェクト型	基本計画モデル+プロジェクト型	プロジェクト型
計画作りの体験・協働の重要性認識	10年後のビジョン作り協議会の設立	計画案の行動実践計画案づくり(91%実行)
1. 防災会 2. 交流 3. 支部長 4. マップ情報・もの	1. 協議会の形成 2. 地域交流センター 3. 人財バンク 4. 地産地消	1. 総合管理 2. 広報・情報 3. 人的支援 4. 物的支援

### 朱八防災会の四面会議システムの適応 (2008.1.26)

- 概要:  
朱雀第八学区(京都市中京区で一番大きい学区、面積:1.055km<sup>2</sup>/人口:10,939人(平成17年2月、中京区から))
- 朱八学区:54地区に分かれている。
- 自主防災会:主要メンバー17人(30代~70代:月に2回集まる)と54地区の支部長から構成されている。支部長会議は月に1回。支部長の多くは毎年変わる(防災意識が低い)。
- 自主防災会の主な活動内容
  - 消火器の詰め替え(年1回/地区)
  - 防災倉庫の備品確認と整理
  - 避難訓練(年1回、11月)
  - フリップ防災
  - その他
- 課題:支部長の教育のための  
「フリップ防災」は外部的に高い評価を得ている。しかし、内部参加は低い(33%)



<朱八学区の総合避難訓練(183名参加)、2007年11月>

四面会議システムは、地域コミュニティのまちづくりにも活用されている。

### 山郷地区地域活動と四面会議

2007.12.22 地区の視察&講演会

2008.1.11 聞き取り調査

2008.1.12 <四面会議>

2008.1.27 四面会議図発表

2008.2.17 協議会発足総会

四面会議システム

SWOT分析

四面会議図

ディベート

逆転ディベート

事業計画書

2008.4-5 勉強会

2008.6.21 <四面会議>

2008.7.13 <新山郷村イベント>

2008.8.13 意見交換会

2008.12.23 年の瀬セミナーin山郷

### Collective Action & Knowledge to Actionが行なわれている四面会議システム

### 山郷地区四面会議図(2008.1.13)

四面の構成

人財/中心(A)

協議会の形成(中心/人財)

5-10年

1年

3ヶ月 地産地消(物)

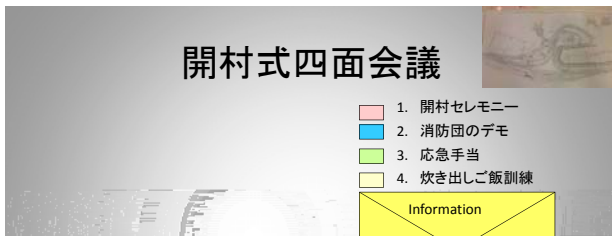
時間(T)

あわせて(合、進) つかって いきいき長いき 山郷づくり

すぐ、即時・短期間の 実行可能できる行動計画案の作成から、始まる。

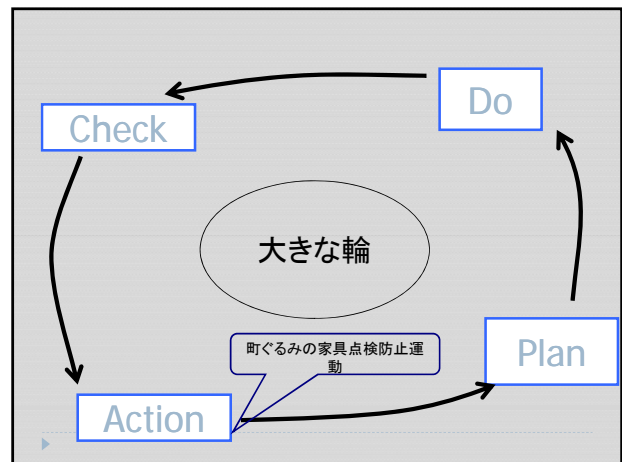
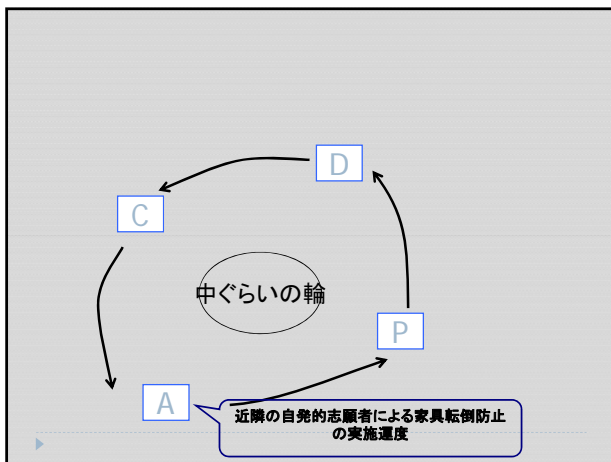
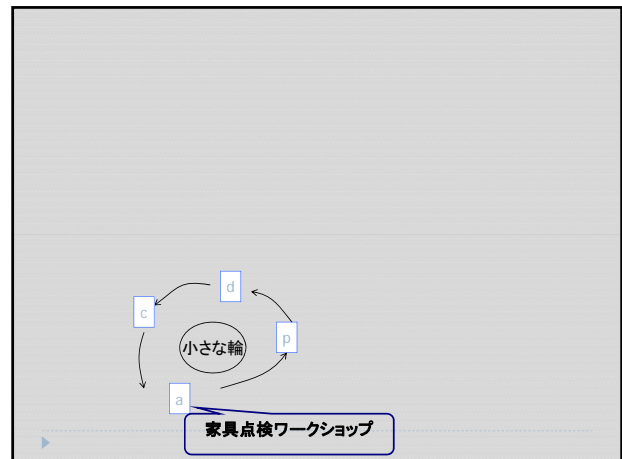
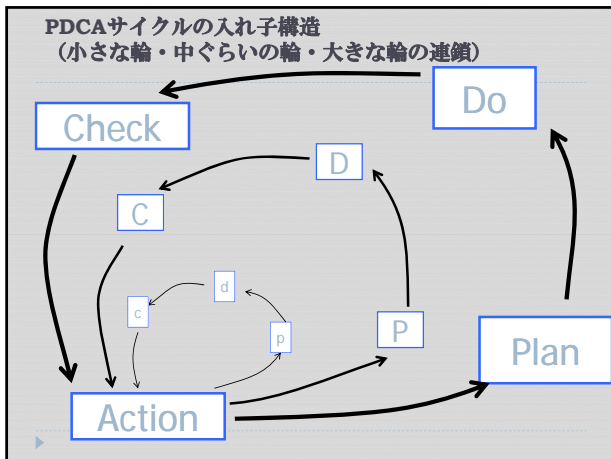
今までの四面会議システムの 展開とは違う進行 → 実行できる身近なところの 行動計画案の作成

# 開村式四面会議



- 1. 開村セレモニー
- 2. 消防団のデモ
- 3. 応急手当
- 4. 炊き出しご飯訓練

Information



### まとめ

- Implementation の意味内容を計画システム論的に検討していく思考実験装置の一つとして、四面会議システムというワークショップ技法を取り上げ、有用性を示した。
- 鳥取県智頭町における安全・安心まちづくりの取り組みを事例にしてImplementation プロセスを、特有のKnowledge Development(知識開発) の過程としてとらえることを試みた。

終わり